



リニア建設に伴う残土問題に関する申し入れ（申6号） 令和4年度第1四半期決算に関する申し入れ（申7号） 8月6日申し入れ（詳細はHPを参照して下さい）

JR東海の2021年4～6月期（第1四半期）決算（連結）は、営業収益は前年同期比で増加したものの依然低水準で、純損益も改善したとはいえ284億円の赤字となりました。新幹線の運輸収入もコロナ禍前の19年4～6月期比では3分の1程度の水準に留まっています。2021年度の業績予想を下方修正し、純利益を900億円から150億円に引き下げました。計画通りの建設資金が調達できていないのです。それでもなお会社は、リニア中央新幹線建設については、建設計画や開業予定の変更などは考えてはいないようです。

ところで、7月初めに発生した熱海市伊豆山地区の土砂災害が、盛り土の流出が主原因だったため、リニア建設工事で発生する残土処分の安全性、盛り土の安定性などについて疑問視する声が上がっています。残土に関していえば、岐阜県御嵩町に計画されている要対策土（ヒ素などの重金属を含み汚染対策が必要とされる土）の恒久処分地に関する不安や、疑問の声も地元から上がっています。地元住民が農業用水として使う河川に有害物質が流入することはないのか、要対策土の恒久管理対策としての遮水シートの安全性、もっと早く丁寧な対応や説明が必要ではなかったのか、といった声です。これと同様の声は、南アルプストンネル静岡工区や、大深度地下シールドトンネル工事でも、同様に聞こえてきます。

建設資金もままならない!

自治体の協力を得られない!

沿線住民の理解も得られない!

ないないづくしでリニア新幹線を建設して、いったい何が残るのだろうか?